

平成26年度 全国学力・学習状況調査 戸田市教育委員会調査結果概要

■教科に関する調査結果

＜小学校A・B問題＞

平均正答率（単位%）

教科	戸田市	埼玉県	全国
国語A	74.7	72.5	72.9
国語B	57.6	55.5	55.5
算数A	79.8	76.9	78.1
算数B	60.0	57.8	58.2

- ・国語では、主に知識に関するA問題及び主に活用に関するB問題ともに、全国及び県平均を上回っている。このことから、基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られていること、活用する力の習得が図られていることがうかがえる。
- ・算数では、主に知識に関するA問題及び主に活用に関するB問題ともに、全国及び県平均を上回っている。このことから、基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られていること、活用する力の習得が図られていることがうかがえる。

＜小学校国語A＞

平均正答率（単位%）

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
話すこと・聞くこと	73.6	71.2	72.4
書くこと	75.8	72.5	72.2
読むこと	72.1	69.8	68.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	73.1	73.7

- ・国語Aでは、3領域1事項すべてにおいて、全国及び県平均を上回っている。このことから国語に関する基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られていることがうかがえる。特に「書くこと」と「読むこと」について、授業改善や研究の成果が出ているものと思われる。
- ・設問2「故事成語の使い方として適切なものを選択する」問題に課題が見られる。言葉について意味を覚えるだけでなく、日常生活のどのような場面で使われるのかを考える学習を充実していく必要がある。

＜小学校国語B＞

平均正答率（単位%）

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
話すこと・聞くこと	54.9	52.7	51.2
書くこと	36.8	34.3	34.4
読むこと	58.8	56.7	57.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	68.9	69.8

- ・国語Bでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、全国及び県平均を上回っているが、国語Aと比べて全体的に正答率が低い。活用する力を育成するための取組のさらなる充実が必要である。
- ・設問3、一「二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉える」問題は、全国平均をやや下回っている。さまざまな詩に触れ、連の構成、表現技法、表記の仕方を具体的に学習する取組を充実していく必要がある。

<小学校算数A>

平均正答率 (単位%)

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
数と計算	83.3	81.3	81.8
量と測定	77.3	73.5	74.8
図形	72.7	70.0	71.8
数量関係	83.2	79.1	81.3

- ・算数Aでは、四つの領域全てにおいて全国及び県平均を上回っている。このことから、基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られていることがうかがえる。しかしながら、「図形」領域については、課題を明確にし、これまで以上に定着を図れるよう取組を充実していく必要がある。
- ・設問6「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ」問題に課題が見られることから、コンパスを使った活動やコンパスの特長が分かるような活動を充実していく必要がある。

<小学校算数B>

平均正答率 (単位%)

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
数と計算	62.8	60.5	61.3
量と測定	58.9	56.8	56.5
図形	66.0	66.1	65.7
数量関係	58.7	55.9	56.2

- ・算数Bでは、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の三つの領域において全国及び県平均を上回っている。「図形」については全国平均を上回っているものの、県平均と同程度である。「図形」の力をさらに身に付けるようにするため、基礎的・基本的な知識及び技能を高めていくとともに、活用する力を育む取組を充実していく必要がある。
- ・設問3(2)「40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ」問題に課題が見られたことから、生活の中で等しく分ける行為と算数の学習を結びつける活動や意識付けを充実していく必要がある。

■児童質問紙調査（抜粋、肯定的な項目2項目の合計）

平均回答率（単位％）

質問事項	戸田市	埼玉県	全国
1 毎日朝食を食べている	96.6	97.2	96.0
2 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※2時間以上の児童の割合	32.7	27.1	25.8
3 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか ※2時間以上の児童の割合	32.1	29.0	30.3
4 家で、自分で計画を立てて勉強している	63.8	65.1	61.0
5 家で学校の宿題をしている	97.2	97.5	96.5
6 学校のきまりを守っている	92.2	93.1	90.5
7 人の気持ちが分かる人間になりたい	93.4	95.6	94.4
8 国語の勉強は好きだ	60.0	61.0	59.2
9 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ	87.9	90.2	87.4
10 算数の勉強は好きだ	65.8	66.1	66.1
11 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ	90.3	91.3	89.0

児童質問紙調査（小学校）について

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については、2時間以上勉強をしている児童が、全国及び県平均を上回っている。小学校は国語A・B、算数A・Bともに平均正答率が全国を上回っていることから、家庭学習による知識・技能の定着に関する効果は大きいと思われる。
- ・「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について、2時間以上の児童の割合が全国及び県平均を上回っている。過度な利用にならないよう情報教育を進めるとともに、家庭でも使用に関するルールづくりが大切である。
- ・「学校のきまりを守っている」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が92.2%であり、全国平均を上回っている。
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」について、「している」「どちらかといえば、している」の合計が63.8%であり、全国平均を上回っている。よい傾向ではあるが、さらに多くの児童に身に付けさせたい態度である。自ら計画を立てて学習することは、家庭学習の習慣化や学習意欲の向上にもつながることから、引き続き各学校や家庭に啓発を進め、取組を充実していく必要がある。
- ・「人の気持ちが分かる人間になりたい」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が93.4%であり、多くの児童は肯定的な回答であるが、全国及び県平均をやや下回っている。引き続き相手を思いやる気持ちを各学校や家庭で育てていく必要がある。

<中学校A・B問題>

平均正答率 (単位%)

教科	戸田市	埼玉県	全国
国語A	79.0	79.4	79.4
国語B	50.7	51.5	51.0
数学A	65.1	66.2	67.4
数学B	58.8	59.3	59.8

- ・国語では、A問題、B問題ともに、全国及び県平均をやや下回っている。概ね基礎的・基本的な知識及び技能、活用する力の育成が図られていることがうかがえるが、これまで以上の改善策の検討と取組が必要である。
- ・数学では、A問題、B問題ともに全国及び県平均をやや下回っている。昨年度以上に基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための取組を行うとともに、習得した知識及び技能を活用する活動を授業に積極的に取り入れる取組が必要である。

<中学校国語A>

平均正答率 (単位%)

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
話すこと・聞くこと	73.8	72.9	72.3
書くこと	84.3	84.1	83.4
読むこと	83.9	83.9	82.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.0	78.0	78.7

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、全国平均を上回っている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均を下回っており、確実な定着を図るための取組のさらなる充実が必要である。
- ・設問8、一「文脈に即して漢字を正しく書く」問題に課題が見られた。部首との関連や熟語が文中でどのような意味で用いられているかを確認しながら学習することにより、漢字を正しく書く力を確実に身に付けられるようにする必要がある。

<中学校国語B>

平均正答率 (単位%)

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
話すこと・聞くこと	この領域に関する問題は出題されなかった		
書くこと	41.0	41.7	41.0
読むこと	49.7	49.9	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.0	56.7	56.8

- ・国語Bでは、「読むこと」については、全国平均を上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均をやや下回っている。活用する力を育成するための取組のさらなる充実が必要である。
- ・設問2、三「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く」問題に課題があった。複数の資料からの情報を正確に理解し、相手や目的に応じて整理し、適切に説明することを重視した言語活動の充実が必要である。

＜中学校数学A＞

平均正答率（単位％）

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
数と式	74.9	76.4	77.4
図形	64.5	65.6	66.4
関数	55.3	56.4	58.0
資料の活用	57.3	56.5	59.1

- ・数学Aでは、「資料の活用」領域において県平均を上回っている。しかし、四つの領域すべてで全国平均を下回っている。このことから、これまで以上に基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る取組を充実していく必要がある。
- ・設問5（4）「円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ」問題は全国平均を下回っており、課題が見られた。小学校の算数Aでコンパスの問題に課題が見られたことから、図形の理解について体験的な活動を多くすると同時に、図形に親しむ機会を増やすようにしていく必要がある。
- ・設問10（4）「反比例のグラフから表を選ぶ」問題が全国平均を下回った。学習指導の中で、グラフと表を関連づける活動を取り入れたり、数や式と表・グラフを関連付けたりする活動を充実していく必要がある。

＜中学校数学B＞

平均正答率（単位％）

学習指導要領の領域等での区分	戸田市	埼玉県	全国
数と式	52.0	54.8	56.9
図形	58.5	58.9	58.6
関数	64.8	64.0	64.4
資料の活用	54.5	54.9	55.9

- ・数学Bでは、「関数」領域において全国及び県平均を上回っている。その他三つの領域については、全国及び県平均を下回っていることから、これまで以上に活用する力を育成するための取組を充実していく必要がある。
- ・「数と式」領域はA問題、B問題ともに全国平均を下回っている。特に、設問2では、正答 $2(m+n)$ が $2 \times$ （整数）を表していることを理解したり、 $2 \times$ （整数）に変形することにより、説明ができることに気付いたりする力が必要である。基礎的・基本的な知識及び技能だけでなく、それらをつなぎ合わせる思考力や表現力を身に付けさせる取組を充実していく必要がある。
- ・設問2（3）「2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する」問題に課題が見られた。このことから、与えられた事柄や予想した事柄について、条件にあてはまる具体例をあげ、それが結論を満たすかどうかを調べる活動を取り入れ、事柄が成り立つかを判断できるようにする取組を充実していく必要がある。

■生徒質問紙調査（抜粋、肯定的な項目2項目の合計）

平均回答率（単位％）

質問事項	戸田市	埼玉県	全国
1 毎日朝食を食べている	93.7	94.5	93.5
2 将来の夢や目標を持っていますか	73.8	72.0	71.4
3 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（ゲームをする時間は除く）※2時間以上の生徒の割合	39.8	34.4	32.7
4 学校の規則を守っている	92.8	93.7	93.0
5 人の気持ちが分かる人間になりたい	95.3	95.7	95.3
6 家で自分で計画を立てて勉強している	48.1	47.7	46.6
7 家で学校の宿題をしている	82.9	85.8	88.2
8 国語の勉強は好きだ	57.7	57.2	58.2
9 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ	83.7	85.6	82.5
10 数学の勉強は好きだ	57.1	56.7	56.6
11 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ	71.1	73.2	71.4

生徒質問紙調査（中学校）について

- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」について、「している」「どちらかといえばしている」の合計が48.1%であり、全国及び県平均を上回っている。よい傾向であると捉えられるが、自ら計画を立てて学習することは、家庭学習の習慣化や学習意欲の向上にもつながることから、引き続き各学校や家庭で取組を充実していく必要がある。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計が73.8%であり、全国及び県平均を上回っている。よい傾向であることから、身近な大人が夢を語る環境を大切にすることにより、今後も前向きな態度を育てられるよう各学校や家庭・地域で取組を充実していく必要がある。
- ・「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」について、2時間以上と回答した生徒の割合が全国及び県平均を上回っていることから、携帯電話やスマートフォンの適切な利用について各学校や家庭の取組を充実していく必要がある。
- ・「数学の勉強は好きだ」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が57.1%であり、全国及び県平均を上回っている。今後も、前向きな意欲を大切にしつつ、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、それらを活用する力の育成を図る取組を充実していく必要がある。
- ・「家で学校の宿題をしている」について、「している」「どちらかといえばしている」の合計が82.9%であり、全国及び県平均を下回っていることから、各家庭と連携して、家庭学習の習慣化をさらに図る取組を充実していく必要がある。